



青少年の体験活動などの効果を経年的な視点から
分析を行ったところ、

子どもの頃の「体験」は 未来社会を担う 子どもたちの 健やかな成長を 確かなものにする

ために必要な要素であることが
見えてきました



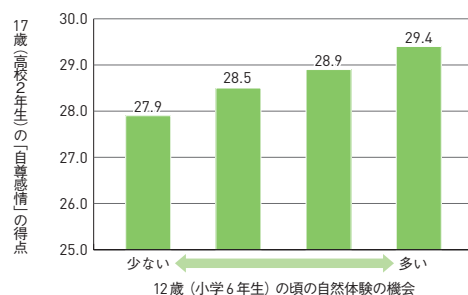
小学生の頃に体験活動などをよくしていると、その後の成長に良い影響が見られることが分かりました

21世紀出生児縦断調査で回答されたデータを再分析したところ、小学生の頃に体験活動（自然体験、社会体験、文化的体験）や読書、お手伝いを多くしていた子どもは、その後、高校生の時に自尊感情（自分に対して肯定的、自分に満足している、など）や外向性（自分のことを活発だと思ふ）、精神的な回復力（新しいことに興味を持つ、自分の感情を調整する、将来に対して前向き、など）といった項目の得点が高くなる傾向が見られました。また、小学生の頃に異年齢（年上・年下）の人とよく遊んだり、自然の場所や空き地・路地などでよく遊んだりした経験のある高校生も同様の傾向が見られました。

このことから、**小学生の頃に行った体験活動などの経験は、長期間経過しても、その後の成長に良い影響を与えている**ことが分かりました。また、経験した内容（体験活動や読書、遊び、お手伝い）によって影響が見られる意識や時期が異なることから、子どもの健やかな成長を確かなものにしていくためには、1つの経験だけでなく、多様な経験をする必要があるということも出てきました。

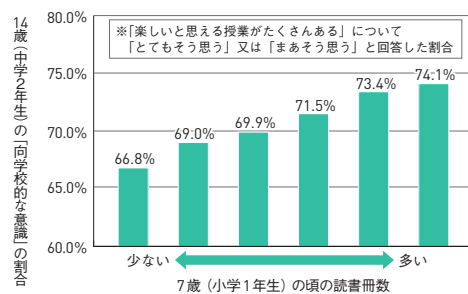
「体験活動」の影響

体験を多くすることによる影響を自然体験（キャンプ、登山、川遊び、ウィンタースポーツなど）、社会体験（農業体験、職業体験、ボランティア）、文化的体験（動植物園・博物館・美術館見学、音楽・演劇鑑賞、スポーツ観戦など）に分けて分析したところ、自然体験では主に自尊感情や外向性、社会体験では小・中・高校生の時期の向学校的な意識（勉強・授業が楽しい）、文化的体験は全ての意識（裏面参照）に良い影響が見られることが分かりました。



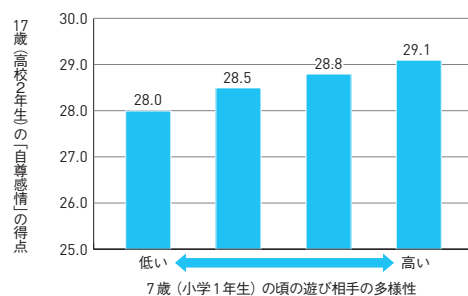
「読書」の影響

読書を多くすることによる影響を分析したところ、新奇性追求（新しいことに興味を持つ、など）や感情調整（自分の感情を調整する、など）、肯定的な未来志向（将来に対して前向き、など）といった精神的な回復力や、小・中・高校生の時期の向学校的な意識に良い影響が見られることが分かりました。



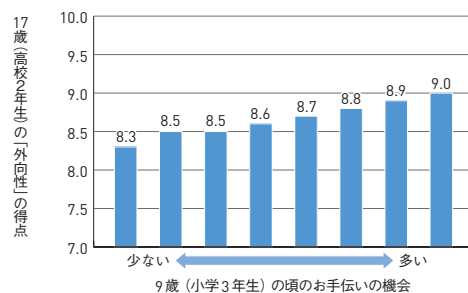
「遊び」の影響

遊び相手などによる影響を分析したところ、異年齢の子どもや家族以外の大人とよく遊ぶなど多様な相手と遊ぶ機会が多いと、自尊感情や外向性などに良い影響が見られることが分かりました。



「お手伝い」の影響

お手伝いを多くすることによる影響を分析したところ、自尊感情や外向性を始め、精神的な回復力、向学校的な意識など、全ての意識に良い影響が見られることが分かりました。



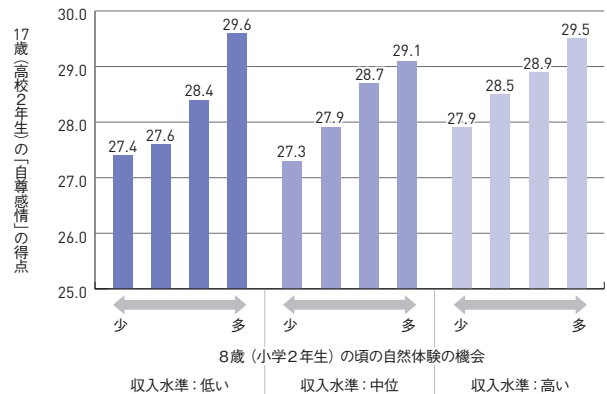
結果

2

体験をよくしていると、家庭の経済状況に関わらず、良い影響が見られることが分かりました

子どもの成長には家庭環境の要因も影響することが考えられることから、子どもが置かれている環境（家族構成、収入、住環境、親のしつけ）を考慮して体験の影響を分析しました。その結果、小学校の時に体験活動などをよくしていると、家庭の環境に関わらず、その後の成長に良い影響が見られることが分かりました。

そこで、世帯収入の水準別に分けて体験と意識との関係を分析したところ（右図参照）、**収入の水準が相対的に低い家庭にある子どもであっても、例えば、自然体験の機会に恵まれていると、家庭の経済状況などに左右されることなく、その後の成長に良い影響が見られることが分かりました。**



社会全体で子どもたちの成長を支えていきましょう

多様な形で「体験」の場や機会をつくっていくことが重要です

小学生の頃に経験した「体験活動」（自然体験、社会体験、文化的体験）「読書」「遊び」「お手伝い」とその後の意識の関係を分析した結果、それぞれの体験の特性によってその後の意識に異なる影響が見られることが分かりました。

そのため、**子どもの健やかな成長を確かなものにするためには、何か1つの体験をするのではなく、多様な体験をすることが必要になると考えます。**

また、体験する機会がよくある子どもは、家庭の収入や親の学歴が高い傾向にあることなどが背景にあると考えられますが、収入の水準が相対的に低い家庭の子どもであっても、体験活動などをよくした子どもはその後の成長に良い影響が見られることが示唆されました。そのため、**全ての子どもたちが様々な体験にチャレンジできるよう、周りにいる大人が「意図的」「計画的」にその機会や場を設けるようにすることが大切です。**

できることから連携してやっていきましょう

今後は、全ての子どもたちが置かれている環境に左右されることなく、体験の機会を十分に得られるように、みなさんで力を合わせて**「多様な体験を土台とした子どもの成長を支える環境づくり」を進めていくことが重要です。**

そのためにできることとしては、家庭ではお手伝いや読書の習慣を身に付けるようにする、地域では放課後などに地域の大人と遊びを通じて交流する機会を設ける、学校では社会に開かれた教育課程の実現を目指して地域と連携しつつ体験活動（自然体験・社会体験・文化的体験）の充実を図るといったことなどが考えられます。

こうした取組を通じて家庭・地域・学校が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていきましょう。



文部科学省では、豊かな体験活動を通じた青少年健全育成の推進について広く理解・普及を図るため、体験活動推進特設ページ（たっぷり体験）を開設しています。

文部科学省 たっぷり体験

検索

「体験」の影響について同じ対象者に対して長年実施する調査のデータから分析しました

子どもが置かれている環境の違いも踏まえ、長期間経過した後の影響について分析

「21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）」という調査のデータを活用し、「体験活動などがその後の状況に及ぼす影響」に関して、次の3つをポイントとして分析を行いました。

- 「過去に経験した体験とその後の意識など」について時系列的な関係性をとらえる
- 家庭・保護者の状況などの違いも踏まえたうえでの体験活動などの影響に着目する
- 多様な「体験」に関し、その後の状況に及ぼす影響について検討する



これらを踏まえ、「多くの体験を経験した子どもはその後の意識が高い」ということを明らかにすることを試みました。

同一の保護者・子どもに対して行う調査のデータを活用

これまでも「体験活動がその後の状況に及ぼす影響」をテーマとした調査は実施されています。しかし、これらの調査は回答者に過去のことを思い出してもらって得た情報を用いることもあり、必ずしも過去の経験を明瞭にとらえた分析はなされてきていませんでした。

また、保護者の経済力や保護者自身の経験の多寡など子どもたちが置かれている環境等によって、子どもたちの『体験格差』が指摘されていますが、従来の分析では、これらの差異があることを踏まえた分析もほとんど行われてきませんでした。

「21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）」は、平成13年の1月10日から同月17日の間及び同年7月10日から同月17日の間に出生した子どもとその保護者を対象とした調査です。同一の調査対象を追跡している調査であり、子どもと保護者の状況について、年に1回の頻度で調査が実施されており、体験活動の効果についてより正確な分析が期待できたことから、この調査データを活用した分析を行いました。

多様な体験と多様な意識との関連性を分析

今回の分析では、「体験」の内容として、「体験活動（自然体験・社会体験・文化的体験）」「遊び」「読書」「お手伝い」に着目しています。なお、「自然体験」はキャンプ、登山、川遊び、釣り、海水浴、マリンスポーツ、ウインタースポーツを、「社会体験」は農業体験、職業体験、ボランティアを、「文化的体験」は動植物園・水族館・博物館・美術館見学、音楽・演劇・古典芸能鑑賞又は体験、スポーツ観戦を、それぞれ反映した項目となっています。

そして、これらの活動の経験の多寡と、「向学校的な意識（勉強・授業を楽しいと思う）」「自尊感情（自分に対して肯定的、自分に満足している、など）」「外向性（自分のことを活発だと思う）」「精神的回復力（①「新奇性追求（新しいことに興味を持つ、など）」、②「感情調整（自分の感情を調整する、など）」、③「肯定的な未来志向（将来に対して前向き、など）」の3つの要素」「心の健康（健康的にすごせている）」といった意識との関連性について分析しました。

■企画・担当

文部科学省総合政策教育局地域学習推進課

■受託・分析

株式会社浜銀総合研究所地域戦略研究部

■調査検討委員会委員（50音順）

阿部 彩（東京都立大学人文社会学部教授）

青木康太郎（國學院大学人間開発学部准教授）

池田幸恭（和洋女子大学人文学部准教授）

加藤承彦（国立成育医療研究センター 社会医学研究部・行動科学研究室室長）

■ヒアリング調査協力・写真提供（機関名、50音順）

特定非営利活動法人キッズドア

公益社団法人国土緑化推進機構

独立行政法人国立青少年教育振興機構

新潟市農林水産部食と花の推進課

公益財団法人ハーモニセンター

特定非営利活動法人プレーパークセタがや

株式会社ラボ教育センター

公益財団法人ラボ国際交流センター

調査・分析結果の詳細は、令和2年度「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」の「青少年の体験活動の推進に関する調査研究 報告書」に掲載しています。

体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト

検索